

社会思想史

成立と確立の時代を生きる

2015年3月7日

安藤隆穂

目次

- ▶ 20世紀と社会思想史
- ▶ 社会思想史の個人史的参照文献
- ▶ 社会思想史：二つの方法
- ▶ 社会思想史の個人史
- ▶ 1968年：戦後社会科学の思想
- ▶ 『社会思想史概論』（1962年）の世界
- ▶ 『フランス啓蒙思想の展開』（1989年）
- ▶ 戦後思想批判と歴史像
- ▶ パリの窓から
- ▶ 『フランス自由主義の成立』（2007年）
- ▶ 研究の現場から
- ▶ 現代思想と社会思想史
- ▶ 課題あるいは展望
- ▶ 思想史の散歩道から

「短い20世紀」 (ホブズボーム) : 社会思想史

▶ 破局の時代 (1914-1945)

= 31年戦争

第1次世界大戦/第2次世界大戦

▶ 黄金の時代 (1945-1973)

= 冷戦・経済成長・福祉国家

1973年オイルショック

▶ 危機の時代 (1973-)

1976年社会思想史学会創立

1980年代新自由主義の時代

1991年ソヴィエト社会主義体制の崩壊

グローバル経済の時代

▶ 反ファシズム : 革命と変革の精神史、思想史

▶ 主題 : 近代的個人と社会/封建制、共同体/
体制問題/歴史

▶ イギリス分析哲学

▶ フランス実存主義、構造主義

▶ ドイツ・アメリカ : フランクフルト学派

▶ 日本 : 社会科学の思想、社会思想史
講座派マルクス主義・市民主義

▶ ポストモダン : 脱近代 : 文明化過程の思想史

▶ 主題 : 構造と諸類型/文明と非文明

▶ 言語論的転回、構造主義、人類学、

▶ 社会史、民衆思想史、女性史、日本近代化論、システム論

社会思想史の個人史的参照文献

---日本

- ▶ 破局の時代（1914-45）
- ▶ 黄金の時代（1945-73）
- ▶ **近代の内在的批判**（「市民社会と社会主義」「ヴェーバーとマルクス」）
- ▶ 主題としての**近代的個人と歴史**
- ▶ 『日本資本主義発達史講座』（1932－33）
- ▶ 『日本資本主義分析』（1934年）
- ▶ 『近代欧州経済史序説』（1944年）
- ▶ 『日本政治思想史研究』（1952年）
- ▶ 『経済学の生誕』（1953年）
- ▶ 『近代人の形成』（1954年）
- ▶ 『社会思想史概論』（1962年）
- ▶ 『社会科学の方法 ヴェーバーとマルクス』（1966年）
- ▶ 『資本論の世界』（1966年）
- ▶ 『日本資本主義の思想像』1967年
- ▶ 危機の時代（1973－）
- ▶ **近代の向こうへ**
- ▶ 主題としての**構造と脱出**
- ▶ 安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』（1974年）
- ▶ 良知力『向こう岸の世界史』（1978年）
- ▶ 網野善彦『無縁・公界・楽』（1978年）
- ▶ 水田珠枝『女性解放思想史』（1779年）
- ▶ フーコー『言葉と物』（翻訳1974年）

社会思想史：二つの方法

体制の思想史：反体制と抵抗の思想史

▶ 主題

近代的個人と社会
国民国家と近代社会
共同体と市民社会
近代と現代
資本主義と社会主義
帝国主義と全体主義

▶ 体制の社会思想史

社会観の歴史

支配と統合の思想

大塚金之助、城塚登、出口勇蔵

▶ 反体制の社会思想史

思想の社会的態度の歴史

近代的個人の思想史

疎外論とイデオロギー暴露

社会思想史の個人史

市民社会の思想史⇒公共圏の思想史

- ▶ 1989年フランス革命200年
- ▶ 修正主義：F.フュレ、K.M.ベーカー
- ▶ 『啓蒙の弁証法』（アドルノ、ホルクハイマー）
- ▶ ハーバマス
- ▶ パーソンズ
- ▶ ハイエク
- ▶ ウォーラシュテイン
- ▶ トクヴィル・ルネッサンス

- ▶ **市民社会の思想史**の時代
- ▶ 「シャルル・フーリエの文明批判とアソシアシオンの構想」（修士論文）1975年
- ▶ 『**フランス啓蒙思想の展開**』 1989年
- ▶ 『社会思想史への招待』（共編著）1991年
- ▶ **公共圏の思想史**到達まで
- ▶ 「革命とそれ以後における自由と公共」（1989年）
- ▶ 水田洋、安藤隆穂「戦後50年を通り過ぎた思想家たち」1995年
- ▶ 『フランス革命と公共性』（編著）2003年
- ▶ 『**フランス自由主義の成立**』 2007年

1968年

---戦後社会科学の思想

- ▶ ヴェトナム戦争（帝国主義と資本主義）
- ▶ チェコとプラハの春（帝国主義と社会主義）
- ▶ 中国文化大革命
- ▶ 学生反乱
- ▶ 70年安保、沖縄
- ▶ 公害
- ▶ 核問題
- ▶ サルトル・アルチュセール
- ▶ フーコー・デリダ
- ▶ ボーボワール
- ▶ 僕の思想史入門
- ▶ 東洋思想史ゼミナールと戦後社会科学
- ▶ マルクス、レーニン、ヴェーバー、パーソンズ
- ▶ ヴェーバー
 - ▶ 宗教社会学
 - ▶ 支配の社会学
 - ▶ 社会主義論（レーニンとヴェーバー）
 - ▶ パーソンズと日本近代化論

『社会思想史概論』（1962年）の世界 ⇒『新原稿社会思想小史』（2006年）

- ▶ 近代的個人
- ▶ 民族（国家、主権、国民）
- ▶ 階級
- ▶ 近代社会（市民社会・共同体）
- ▶ 体制（資本主義・社会主義）
- ▶ 二つの読み方
 - ▶ 社会思想の歴史
 - ▶ 社会思想史
- ▶ 近代的社会観成立史
 - ▶ マキャベッリ、ホッブズ、スミス
 - ▶ ルソー、カント、ヘーゲル
 - ▶ J.S.ミル
 - ▶ 初期社会主義
 - ▶ 1848年とマルクス
- ▶ 社会主義思想史
- ▶ 思想の社会史的転位
- ▶ 比較思想史
- ▶ 日本の近代

『フランス啓蒙思想の展開』（1989年）

---問題と展望

- ▶ 切断と発展：比較思想史
- ▶ 啓蒙思想⇒市民革命の思想
- ▶ 啓蒙的立法⇒市民社会
- ▶ ヴォルテール---（スミス）---コンドルセ夫妻---B.コンスタン
- ▶ ヴォルテールの復権
- ▶ 百科全書派の再読
- ▶ 重農主義の相対化
- ▶ モンテスキューの再読
- ▶ ルソー再措定
- ▶ ヴォルテールとスミス
- ▶ フランス道德哲学の水脈
- ▶ ディドロとルソー再解釈
- ▶ チュルゴ---コンドルセの発見
- ▶ フランス革命の世界史的位罫
- ▶ 自由主義と市民社会という文脈
- ▶ コンドルセの市民社会像
- ▶ フランス革命の思想像
- ▶ フランス市民社会論の成立

戦後思想批判と歴史像

- ▶ フランス修正主義（フュレ）
- ▶ トクヴィル文明化論の復権
- ▶ ドイツ文明過程論（エリ阿斯）・概念史（リーデル）
- ▶ ケンブリッジ文脈主義（スキナー）
- ▶ フランクフルト学派の分解（ハーバマス、アレント）
- ▶ 歴史像の転換・歴史の終わり
- ▶ 市民革命論から文明化論へ
- ▶ 「人間および市民の諸権利の宣言」（1789年）再読
- ▶ 革命か統合か
- ▶ 文明化と市民の優位
- ▶ 近代的個人の危機
- ▶ 革命か文明化か
- ▶ 歴史か構造か（歴史における個人）
- ▶ 体制か反体制か
- ▶ 唯名論の終末：言語論的転回

パリの窓から

▶ スミス研究・コンドルセ研究

- ▶ 国際啓蒙思想学会第6回大会（ブリュッセル1986）
- ▶ 「アダムスミス死後200年記念名古屋国際シンポジウム」（1991）
- ▶ 国際啓蒙思想学会第8回大会（ブリストル1992）
- ▶ 「パリ国際シンポジウム：アダム・スミスと植民地」（1994）

▶ 方法的意識

- ▶ 「フランソワ・ケネー国際シンポジウム」（ヴェルサイユ1995）

▶ D.ウインチ、A.スキナー、I.ロス

▶ J.エシュト、G.ファッカレーロ、Ph.シュテネル、J.P.ラグラーヴ

▶ 自由主義の新研究

▶ 公共圏の思想史

▶ K.M.ベイカー、M.オズーフ

『フランス自由主義の成立』

「自由と公共」「公共圏の思想史」

- ▶ フランス自由主義の諸潮流
 - ▶ 18世紀重農主義
 - ▶ 革命後経済自由主義（J.B.セー）
 - ▶ 19世紀政治的自由主義
 - ▶ ギゾー的文明化
 - ▶ コンスタン立憲主義
- ▶ K.M.ベーカー、C.P.ウェルチ、A.O.ハーシュマン、P.クレペル、P.ローザンヴァロン
- ▶ E.ロスチャイルド
- ▶ 文明化過程の自由主義
- ▶ 新しい自由主義像を求めて
- ▶ チュルゴ⇒コンドルセの自由主義
 - ▶ 道德哲学と公共圏
 - ▶ スミスとコンドルセ
 - ▶ 自由主義と共和制
- ▶ B.コンスタンとスタールの自由主義へ
 - ▶ ハイエク・欧米研究批判
 - ▶ コペ・グループと大陸自由主義
 - ▶ スミス道德哲学の大陸漸進
- ▶ 人間と市民の分裂：自由主義

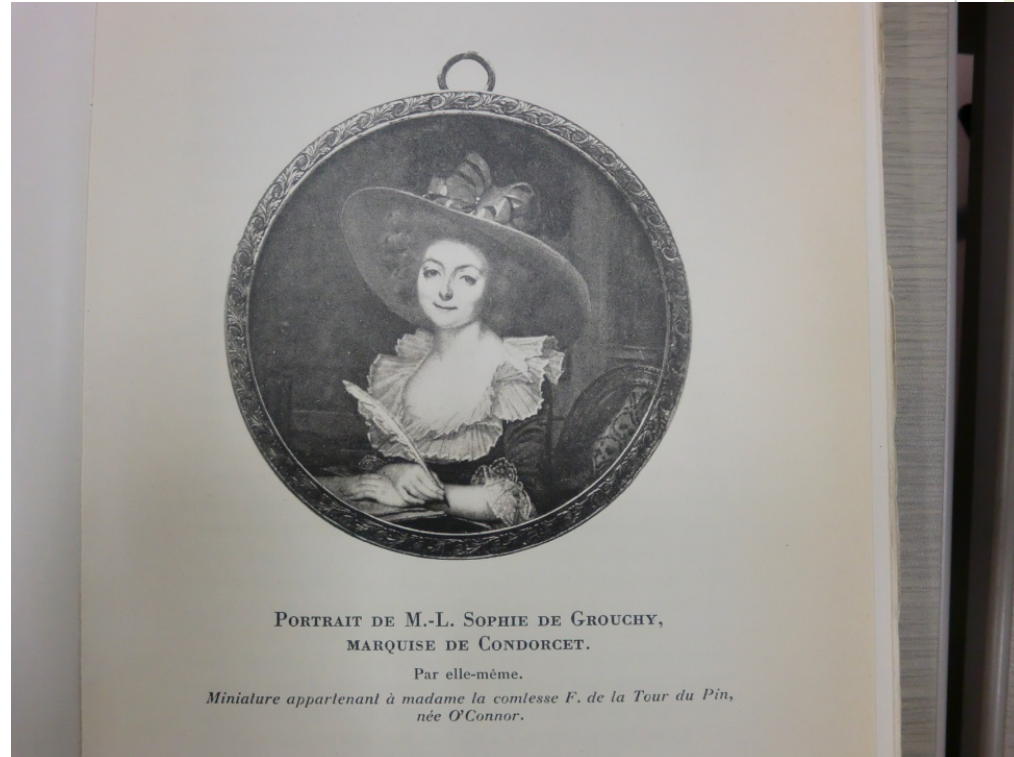
『フランス自由主義の成立』

研究の現場から

▶ グルーシイ家のソフィー

- ▶ デュパチと寛容論・法廷の公開
 - ▶ ルーシエと『国富論』
 - ▶ ソフィーと『道徳感情論』
 - ▶ ネッケル及びスタール
-
- ▶ 妹シャルロット：カバニス夫人
 - ▶ 兄エマニュエル：ナポレオン軍将軍
 - ▶ 経済⇒公共：政治・道徳・文学

▶ 画家ソフィー



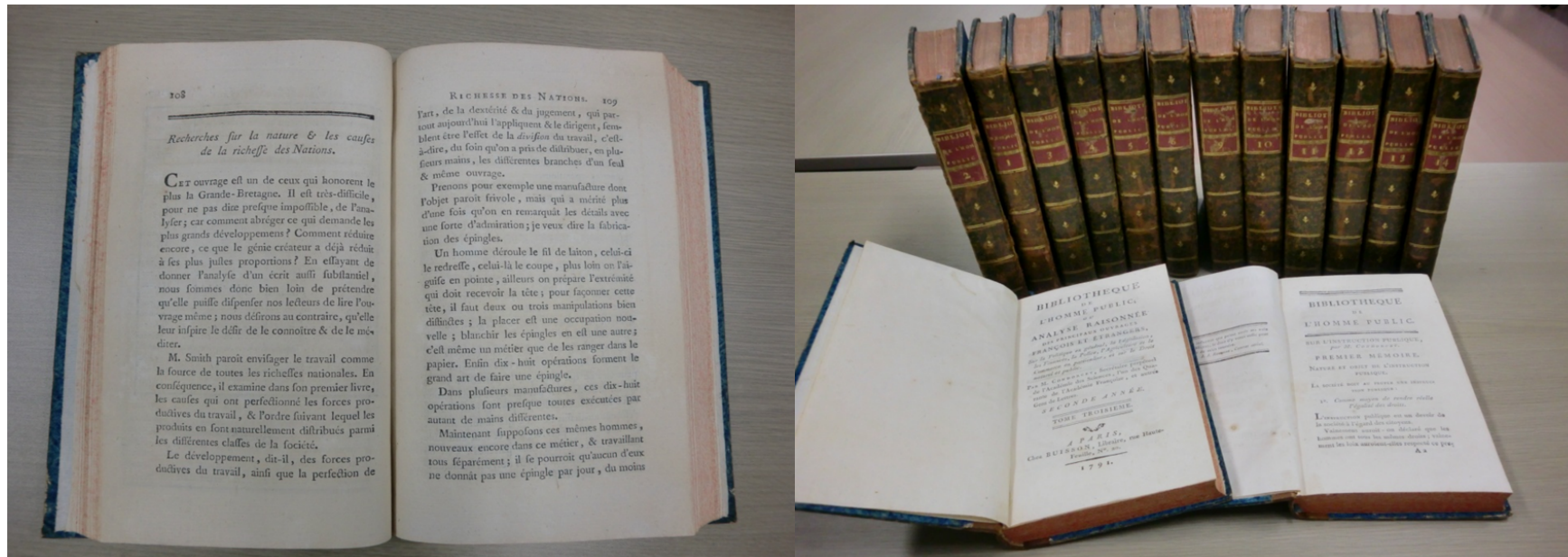
コンドルセ (1743-94)

ソフィー・コンドルセ (1764-1822)



『フランス自由主義の成立』 研究の現場から：「国富論解説」物語

- ▶ 『公人叢書』に入れられた
コンドルセ「国富論解説」
- ▶ 『公人叢書』目次
- ▶ アリストテレス、ボーダン、
マキャベッリ、ロック、ヒューム、
ルソー、スミス、・・・



フランス現代思想と社会思想史

- ▶ フーコーの知の考古学と思想史
- ▶ 社会思想史的批判
- ▶ 近現代
- ▶ イデオロギー暴露による主体の探求
- ▶ 規律と訓練（ディシプリン）
- ▶ 歴史の回復
- ▶ 権力の偏在化
- ▶ 「イデオログ」の再解釈
- ▶ 主体の不在
- ▶ 知の考古学
- ▶ 思想の系譜学
- ▶ 概念史
- ▶ 脱歴史

課題あるいは展望

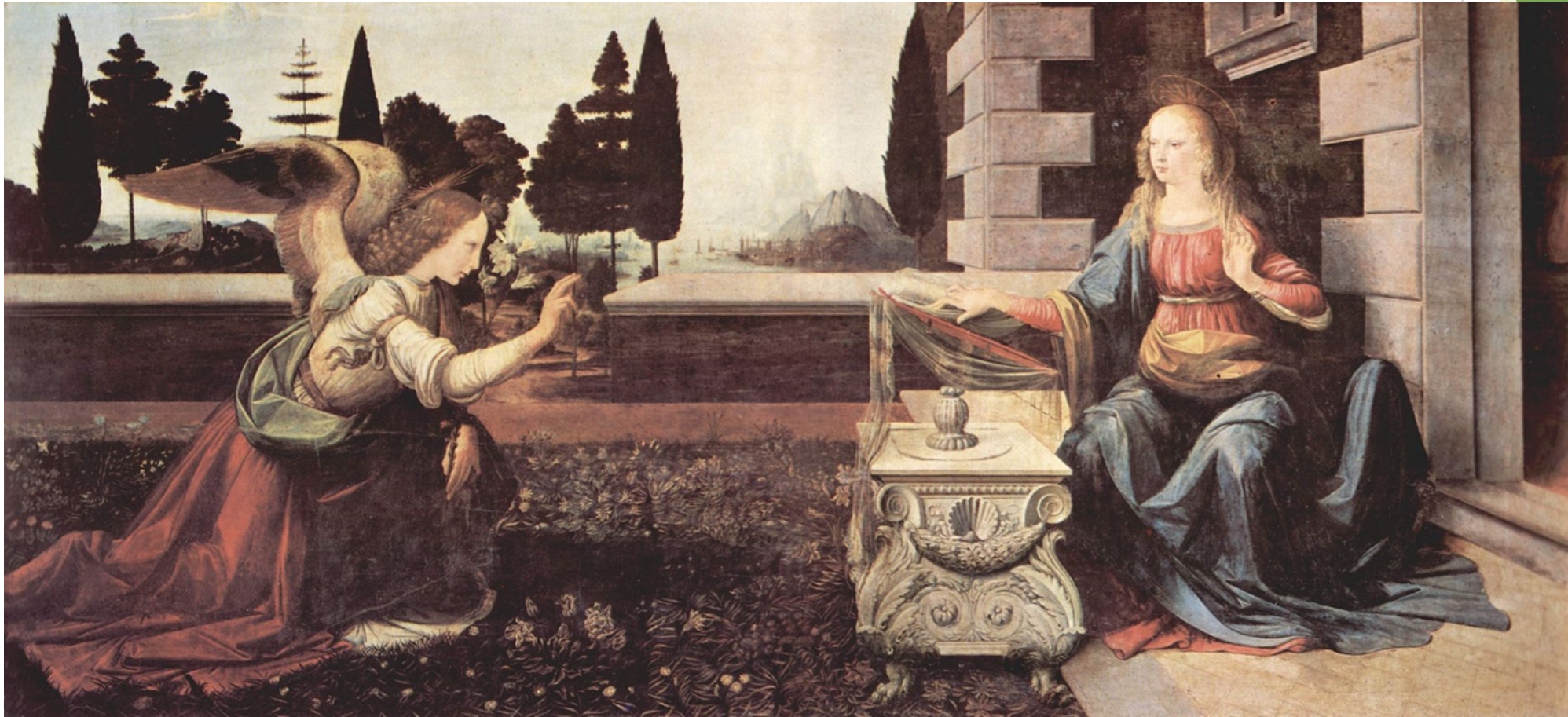
- ▶ 市民革命論⇒文明過程論
- ▶ 体制と革命⇒統合と政治文化
- ▶ 政治の優位

- ▶ 「民主主義と社会主義」（市民社会論）⇒「自由主義と公共圏」

- ▶ 人間の優位

- ▶ 公共圏の思想史研究
- ▶ 自由主義
- ▶ ソフィー・コンドルセ---スタール
- ▶ 大陸自由主義
- ▶ コペ・グループ・比較思想史
- ▶ 東西比較思想史
- ▶ 日本近代思想史と東アジア公共圏

思想史の散歩道から 近代人の誕生：ダ・ヴィンチ「受胎告知」 (1472-73年)



近代の中へ：モネ 日傘をさす女性（1875年）



1968年の国家、市民社会、人間

▶ 大学紛争（市民戦争）



http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/activities/model-program/library/UTW_History/Page04.html

▶ ベトナム戦争（権力と個人）



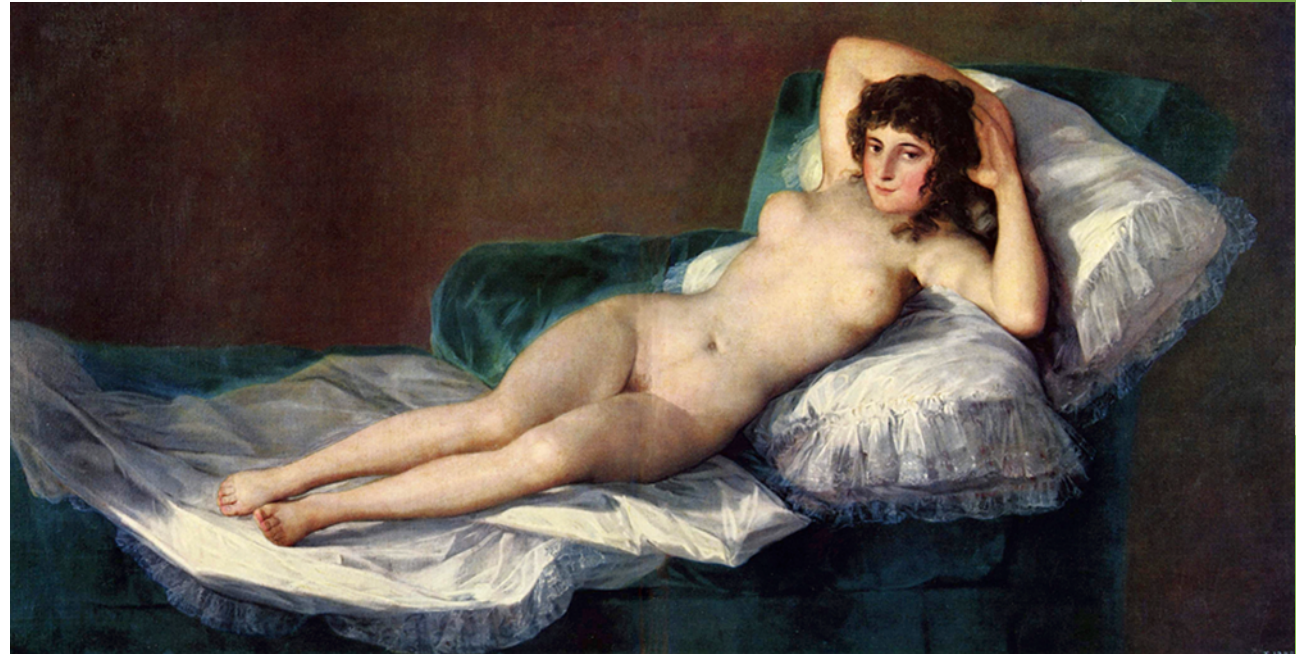
http://en.wikipedia.org/wiki/Eddie_Adams_%28photographer%29

ソフィー・コンドルセ自画像／ゴヤ

▶ ソフィー・コンドルセ1800



▶ ゴヤ1797-1800?



市民革命：人間と市民 ゴヤ／ドラクロア

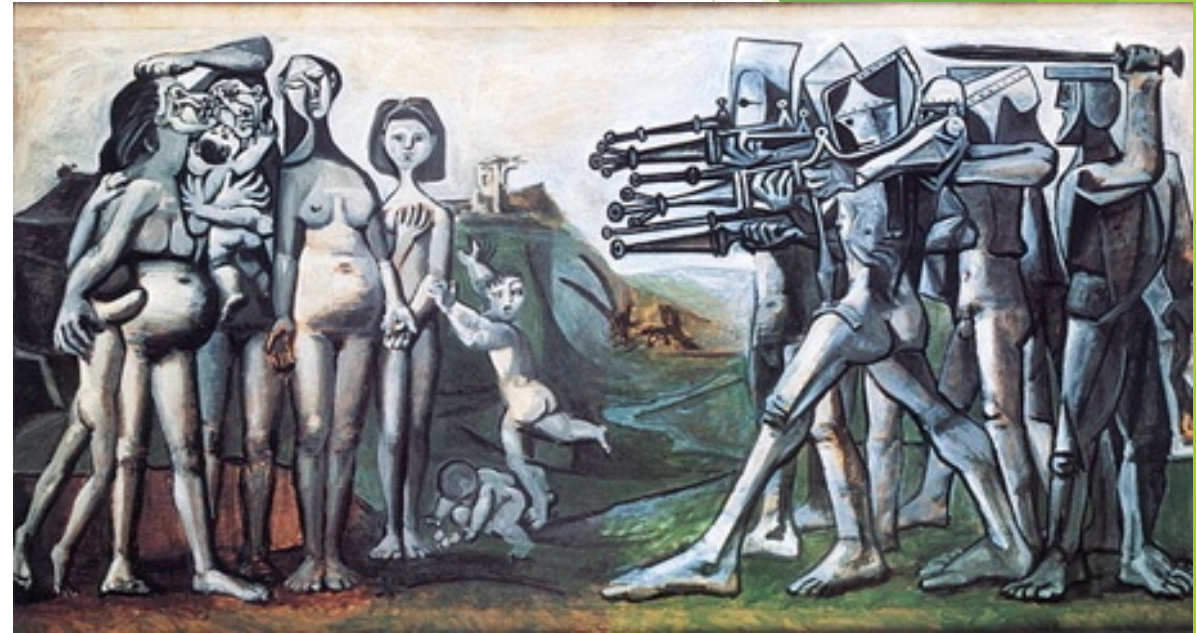


ゴヤ：マドリード1808年5月3日
プリンシペ・ピオ丘での銃殺（1814年）



ドラクロア：民衆を率いる自由の女神
1830年7月28日（1830年）

ピカソ「ゲルニカ」(1937)



「朝鮮の虐殺」 (1951)

南京：虐殺紀念館（2012年）



“

風はおのが好むところを吹く

”